

第8図 嫁坂遺跡出土遺物実測図(2) (1/3)

21は古代の甕の口縁部である。内外面とも風化気味だが外面は横ナデ、内面はナデ調整が施されている。外面には数カ所に指押さへの痕跡も見られる。

#### 白磁（第8図22～26）

いずれも白磁碗である。22は胴部片で内外面ともに施釉があり外面下位から露胎となる。23は胴部下位片で内外面とも施釉があり外面下位から露胎となる。内面下端に沈線が見られ底部へと続く。24は胴部片で内外面とも施釉があり内面に数条の沈線が施されている。太宰府分類のV×VI×VII×VIIIに比定される。25は底部片で内外面に施釉がみられ立ち上がり部の内面に沈線がある。底部は6.2cmを測る。太宰府分類のIX-Iに比定される。26は高台付き底部で内外面と底部は無釉で高台部は端部が露胎となる。4箇所に挟り込みがあり内面には4か所に跡目が見られる。15世紀前半に比定される。（永友）

### 第5節 まとめ

今回の調査では、旧河川が南側から南北方向に貫流し、調査区の中央部付近で東西方向に流れを変え蛇行していることが確認された。また、文明降下軽石に覆われた中世の水田跡を調査区の南東隅を除くほぼ全面から検出した。水田跡は旧河川によって大きく南北に分断されており、北側で3面、南側で6面の水田面を確認した。検出された水田跡からは水田面全体に無数の農耕具痕と人や牛の足跡が検出され、特に、SW4やSW5では列状や弧状の鋤き込み痕が認められた。さらに、他の畦畔とは明らかに様相の異なる盛り上がりを確認されたSW7やSW8はプラントオパール分析で多くの育成段階初期（苗の段階）の稲が検出されていることから苗代の痕跡と考えられる。

調査区の南東隅では、溝状遺構が旧河川に平行して2条と直行するように4条、さらに、道路状遺構3条が検出されたが共伴する遺物が少ないため時期の確定は難しいが中世のものと思われる。

御池ボラを含む褐色土層上面を調査した調査区南東隅の緩斜面からはピット群および土坑が検出されたが、特に円形配置ピット群と土坑（SC1・SC2）は前節でも述べているように埋土の状態や配置の状況から中央付近に連結状土坑を持つ平地式住居、あるいは壁の消失した竪穴住居の可能性が強い。相対する柱穴の間隔はほぼ3mを測り住居の規模も直径4mを越える円形のプランが考えられる。住居の時期については住居に供伴する遺物はないが、隣接するピット4から口縁部がやや肥厚するナデ調整の後期土器（7）や晩期の黒色精製磨研土器（13）が出土していることから後期後半～晩期前半にかけての大まかな時期が想定される。調査区の南東側には現在の集落がひろがる段丘面が延びてきており、おそらく、調査区西側を流れる小河川の右岸に延びる段丘上一帯に縄文時代後期から晩期にかけての集落が営まれていると思われる。（永友）

## 第6節 嫁坂遺跡における自然科学分析

### 嫁坂遺跡におけるプラント・オパール分析

#### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (藤原・杉山, 1984)。

嫁坂遺跡の発掘調査では、桜島文明軽石 (Sz-3, 1471年) 直下から水田遺構が検出された。ここでは、同遺構における稲作の検証およびその他の層における水田跡の探査を主目的として分析を行った。

#### 2. 試料

試料は、A区のA地点、B地点、C地点、D地点、Sz-3直下検出面およびB区の北壁地点、Sz-3直下検出面から採取された計84点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

#### 3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-5}$ g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

#### 4. 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科、オオムギ族（穎の表皮細胞）の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

#### 5. 考察

##### (1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。次表に各地点・各層準におけるイネの検出状況を示す。

表2 嫁坂遺跡におけるイネのプラント・オパールの検出状況

記号：◎5,000個/g以上，○3,000個/g以上，△3,000個/g未満

×未検出，－該当試料なし

層準 \ 地点	A区					B区		備考
	A	B	C	D	検出面	北壁	検出面	
Sz-3直上層	△	○	△	△	－	◎		
Sz-3直下層	△	△	△	○	○	○	◎	1471年
褐色土層	△	○	◎	△	－	○		
暗褐色土層	○	○	◎	○	－	◎		
砂質土層	○	△	－	△	－	－		Kr-M混在

##### 1) Sz-3直上層

A区のA、B、C、D地点、およびB区の北壁地点の5地点について分析を行った。その結果、すべての地点からイネが検出された。このうち、B区北壁地点では密度が6,800個/gと高い値であり、A区B地点でも3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの地点では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。A区のA、C、D地点では密度が800～2,200個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられる。

##### 2) Sz-3直下層

A区のA、B、C、D、Sz-3直下検出面、およびB区の北壁地点とSz-3直下検出面から採取された計40試料について分析を行った。その結果、A区Sz-3直下検出面の試料6～8を除く37試料からイネが検出された。

水田区画ごとのイネの出現状況を見ると、A区の水田面SW4では密度が平均4,500個/g、B区の水田面SW7では平均5,200個/g、水田面SW8では平均5,000個/g、水田面SW9では平均5,300個/gといずれも高い値である。したがって、これらの遺構面では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

A区の水田面SW3では、密度が平均1,700個/gと低い値である。このことの原因として、稲作が行われていた期間が他の区画よりも短かったことや、洪水などによって耕作土が流出したことなどが考えられる。イネが検出されなかったA区Sz-3直下検出面の試料6~8の部分は、帯状の高まりとなっており、大畦などの可能性が考えられる。

### 3) 褐色土層

A区のA、B、C、D地点およびB区北壁地点の5地点について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、A区C地点では密度が6,800個/gと高い値であり、A区B地点やB区北壁地点でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの地点では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。A区のA地点とD地点では、密度が2,000個/g程度と比較的低い値である。

### 4) 暗褐色土層

A区のA、B、C、D地点およびB区北壁地点の5地点について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、A区C地点では密度が5,200個/g、B区北壁地点でも6,000個/gと高い値であり、その他の地点でも3,000~3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの地点では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

### 5) 砂質土層

A区のA、B、D地点の3地点について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、A区A地点では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、ここでは稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の地点では、密度が1,000個/g未満と低い値である。

#### (2) イネ苗について

Sz-3直下検出面から検出されたイネの中には、縦長が30 $\mu$ m前後と明らかに小型で、形状が未熟なものや縦長に対する横長の比率が大きいものが比較的多く認められた(写真No3参照)。これは生育段階初期(苗の段階)のイネに特有のものである(能登ほか, 1989, 杉山, 1998)。このことから、Sz-3直下の水田面にはイネ苗が生育しており、田植え直後の状況であったと推定される。

#### (3) 稲粳の生産総量の推定

Sz-3直下層から検出されたイネの密度は平均5,100個/gである。この値から、層厚10cmの堆積期間中に生産された稲粳の総量を推定すると、面積10a(1,000m<sup>2</sup>)あたり約5,300kgと算出される。当時の稲粳の年間生産量を面積10aあたり100kgとすると、同層ではおよそ50年間にわたって稲作が営まれていたことが推定される。ただし、これらの値は収穫が穂刈りで行われ、稲わらがすべて水田内に還元されたと仮定して算出しているため、収穫が株刈りで行われて水田から持ち出された場合は、その割合に応じて修正を行う必要がある。

#### (4) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはオオムギ族とヒエ属型が検出された。

オオムギ族（穎の表皮細胞）は、B区北壁のSz-3直下層（試料3）から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類（コムギやオオムギなど）と見られる形態のもの（杉山・石井，1989）である。密度は800個/gと低い値であるが、穎（籾殻）は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、各層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

ヒエ属型は、A区の水田面SW3（試料12）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを完全に識別するには至っていない（杉山ほか，1988）。また、密度も800個/gと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

#### 6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された桜島文明軽石（Sz-3，1471年）直下層では、分析を行ったほとんどの試料からイネが多量に検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、その下位の褐色土層や暗褐色土層でも稲作が行われていた可能性が高いと判断された。さらに、霧島御池軽石（Kr-M，約4,200年前）を混在する砂質土層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

#### 文献

- 杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第2号，p.27-37.
- 杉山真二・石井克己（1989）群馬県子持村、F P直下から検出された灰化物の植物珪酸体（プラント・オパール）分析．日本第四紀学会要旨集，19，p.94-95.
- 杉山真二（1998）イネ苗の植物珪酸体とその応用—水田埋没の季節推定—．日本文化財科学会第15回大会研究発表要旨集，92-93.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—．考古学と自然科学，20，p.81-92.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—．考古学と自然科学，9，p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表1 宮崎県、塚坂遺跡におけるプラント・オパール分析結果  
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	A区A地点										A区B地点									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	22	7	23	15	38	30	23	7	30	38	1	2	3	4	5	6	7	8	8	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	22	7	8	23	23	8	8	8	15	23	8	23	8	23	7	8	8	8	8	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	90	120	151	182	128	105	136	187	105	159	23	68	173	202	53	75	158	182	8	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																				
オオムギ族(穎の表皮細胞)	Wheat husk Phytolith																				

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.66	0.22	0.67	0.45	1.11	0.88	0.67	0.22	0.88	1.11	0.66	0.66	0.88	1.11	1.10	0.22	0.22	0.22	0.22
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	0.48	1.44	1.42	0.47	0.48	0.48	0.95	0.95	1.43	0.48	1.43	0.47	0.47	0.47	0.47	0.48	0.48	0.48
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.28	0.09	0.37	0.09	0.75	0.65	0.56	0.56	0.37	0.09	0.19	0.09	0.37	0.46	0.19	0.09	0.28	0.56	0.19
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.43	0.57	0.73	0.87	0.61	0.50	0.65	0.90	0.50	0.76	0.11	0.33	0.83	0.97	0.25	0.36	0.76	0.87	0.04

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	A区C地点										A区D地点									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	23	15	23	38	68	52	23	30	46	38	8	37	22	15	8	7	30	8	7	
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	30	15	46	15	60	22	15	45	68	38	30	30	52	60	53	30	8	45	30	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	98	121	84	106	83	90	158	128	122	143	166	120	127	271	173	180	83	143	105	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																				
オオムギ族(穎の表皮細胞)	Wheat husk Phytolith																				

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.67	0.45	0.67	1.11	1.99	1.54	0.66	0.89	1.34	1.11	0.22	1.10	0.66	0.44	0.22	0.22	0.89	0.22	0.22
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.38	0.19	0.57	0.19	0.75	0.28	0.19	0.56	0.85	0.47	0.37	0.37	0.65	0.75	0.65	0.37	0.09	0.56	0.37
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.47	0.58	0.40	0.51	0.40	0.43	0.76	0.61	0.58	0.69	0.80	0.57	0.61	1.30	0.83	0.86	0.40	0.69	0.50
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																			

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)	学名	A区水田検出面														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	38	38	60	38	15			15	15	30	8	8	15	30	
	<i>Echinochloa</i> type	8	8		23		8	8	23	8	8	15	8	7	8	
	<i>Phragmites</i> (reed)	15	23	7	38	7	30	8	30	61	23	8	23	37	8	
	<i>Miscanthus</i> type	150	105	119	158	127	188	135	113	173	68	135	68	105	82	
	Bambusoideae (Bamboo)															
	Wheat husk Phytolith															

検出密度 (単位: ×100個/g)	学名	B区水田検出面														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.10	1.10	1.76	1.10	0.44			0.44	0.45	0.88	0.22	0.22	0.44	0.88	
	<i>Echinochloa</i> type	0.63			1.42			0.47	0.47	1.42	0.47	0.95	0.47	0.47	0.47	
	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	0.95					0.09	0.37	0.47	0.75	0.28	0.09	0.28	0.46	
	<i>Miscanthus</i> type	0.19	0.28	0.09	0.47	0.09	0.37	0.09	0.37	0.47	0.75	0.28	0.09	0.28	0.46	
	Bambusoideae (Bamboo)	0.72	0.50	0.57	0.76	0.61	0.90	0.65	0.54	0.83	0.33	0.65	0.33	0.50	0.39	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)	学名	B区水田検出面 (畦畔部?)														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	67	60	53	38	52	45	45	30	68	45	52	45	37	68	
	<i>Echinochloa</i> type				8	7	22	7	8	8						
	<i>Phragmites</i> (reed)	37		23	53	7		37	8	45	22	37	82	38	30	
	<i>Miscanthus</i> type	142	164	136	173	142	187	150	212	180	232	172	157	60	121	
	Bambusoideae (Bamboo)															
	Wheat husk Phytolith												15			

検出密度 (単位: ×100個/g)	学名	B区水田検出面 (畦畔部?)														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.98	1.76	1.56	1.10	1.54	1.32	1.32	0.89	1.99	1.32	1.54	1.32	1.10	1.99	
	<i>Echinochloa</i> type				0.47	0.47	1.41	0.47	0.48	0.47						
	<i>Phragmites</i> (reed)	0.46		0.28	0.65	0.09		0.46	0.09	0.56	0.28		0.46	1.02	0.47	
	<i>Miscanthus</i> type	0.68	0.79	0.65	0.83	0.68	0.90	0.72	1.02	0.86	1.12	1.11	0.83	0.76	0.29	
	Bambusoideae (Bamboo)															

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料										
		B区北壁										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	68	8	45	38	15	37	45	23	38	45	60
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	8		8		15		15		15	23	8
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	38	68	45	98	30	45	23	68	23	83	76
タケ重科	Bambusoideae (Bamboo)	152	211	218	286	202	225	301	165	173	203	106
オオムギ族(穎の表皮細胞)	Wheat husk Phytolith		8									

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.01	0.22	1.33	1.11	0.44	1.10	1.33	0.66	1.10	1.33	1.78
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.48		0.48		0.95		0.95		0.95	1.43	0.48
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.47	0.84	0.56	1.21	0.37	0.56	0.28	0.84	0.28	1.03	0.94
タケ重科	Bambusoideae (Bamboo)	0.73	1.01	1.05	1.37	0.97	1.08	1.44	0.79	0.83	0.98	0.51

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

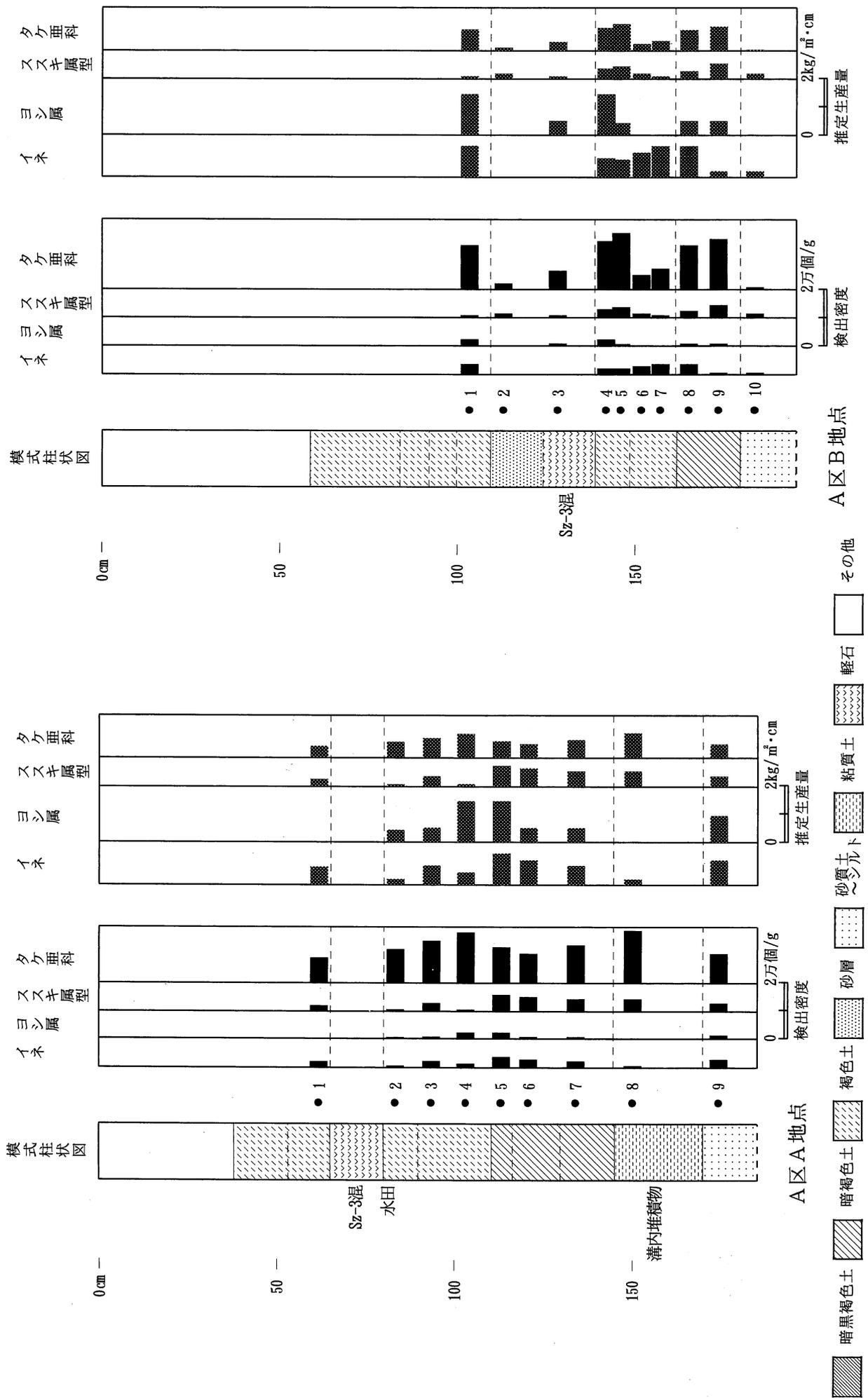
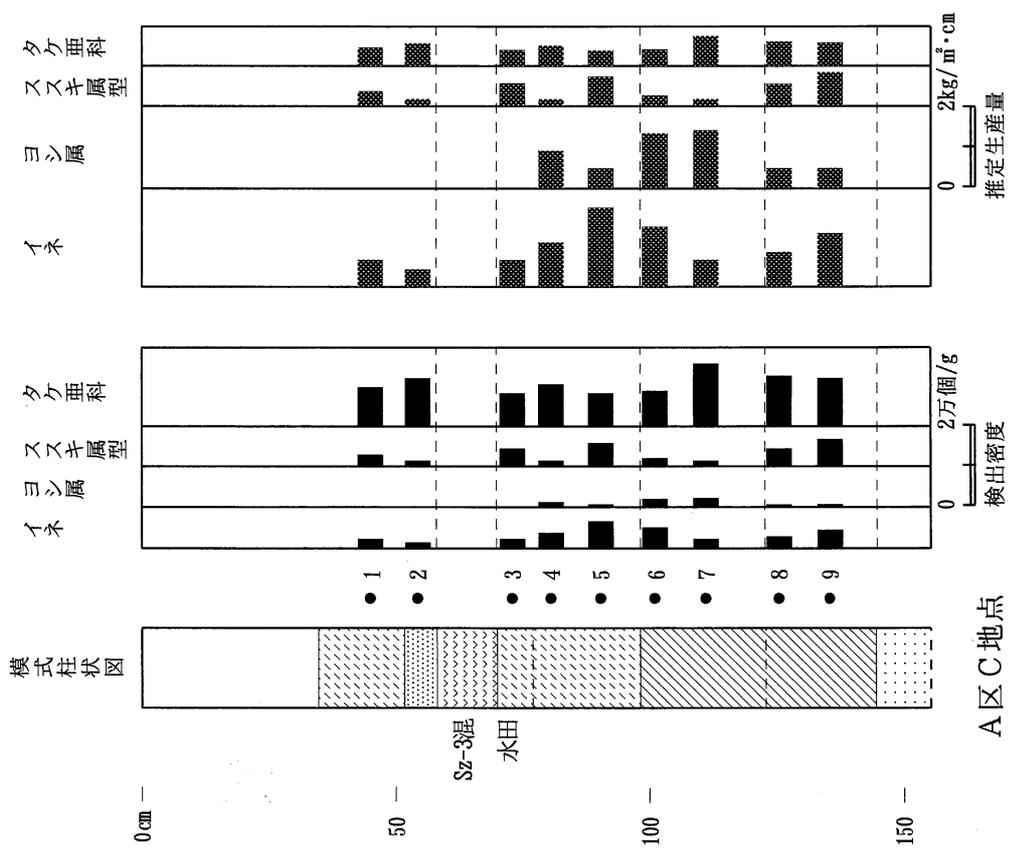
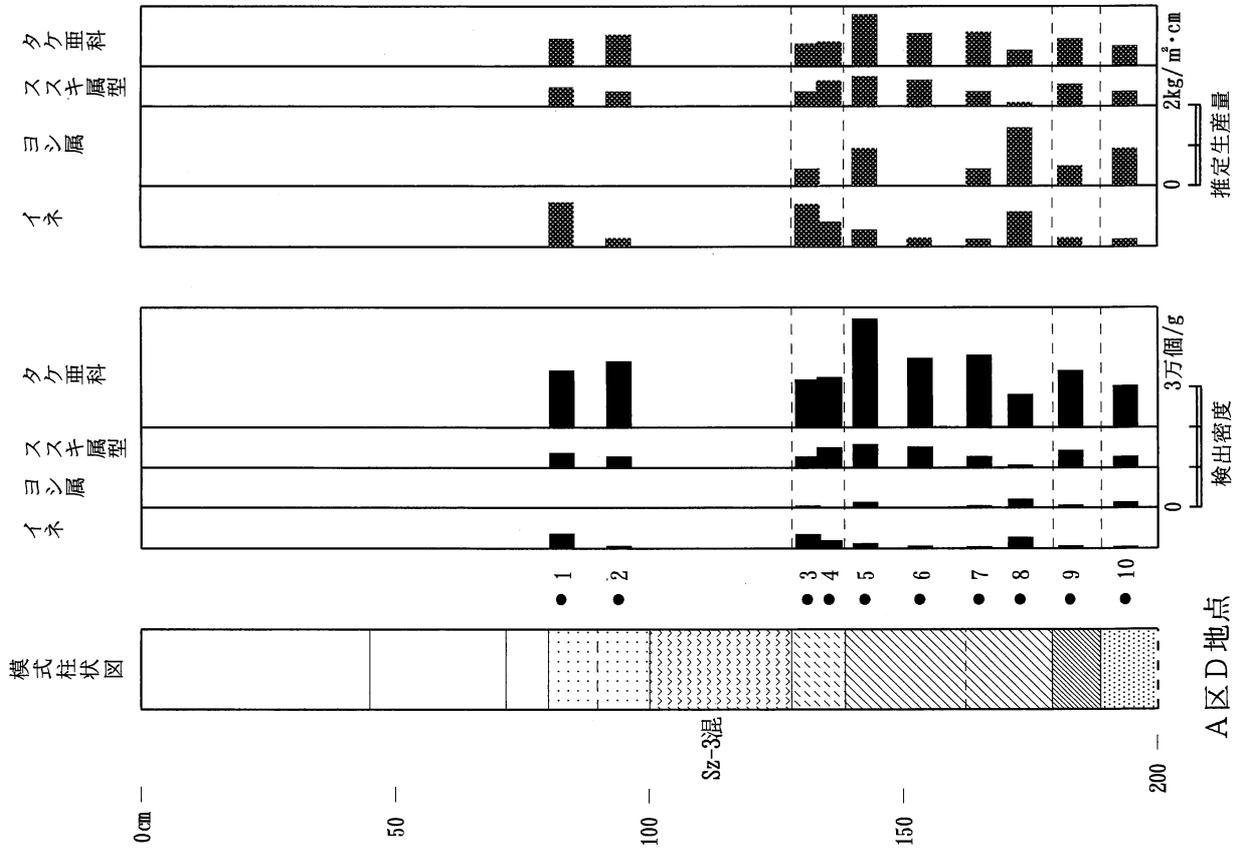
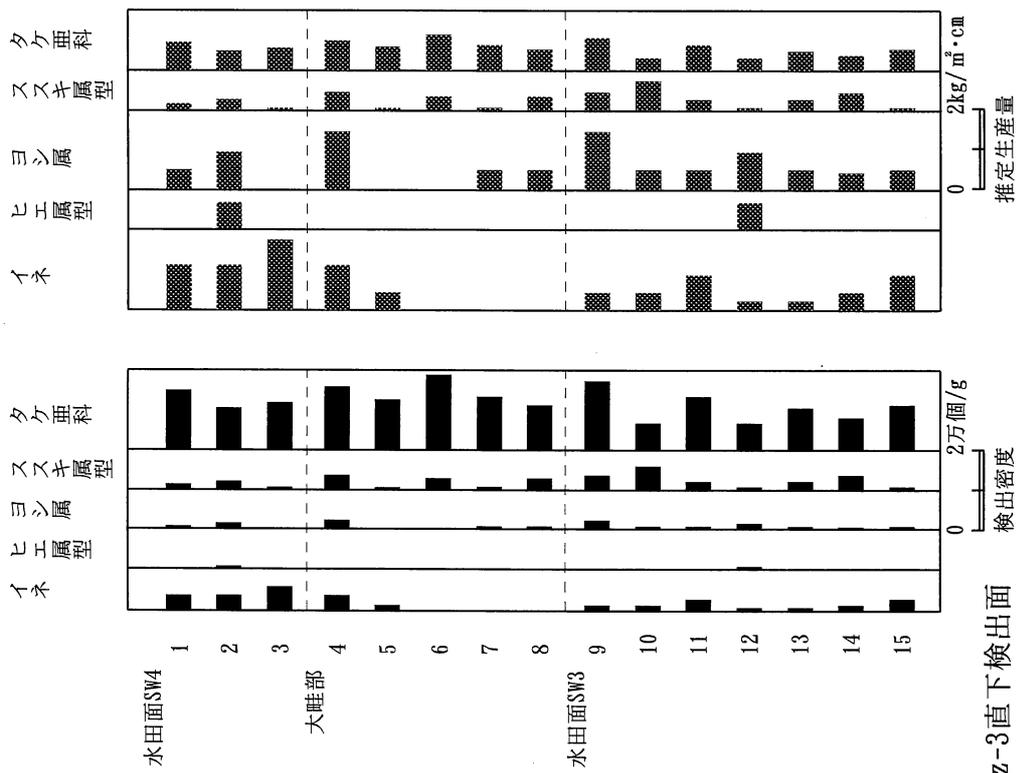
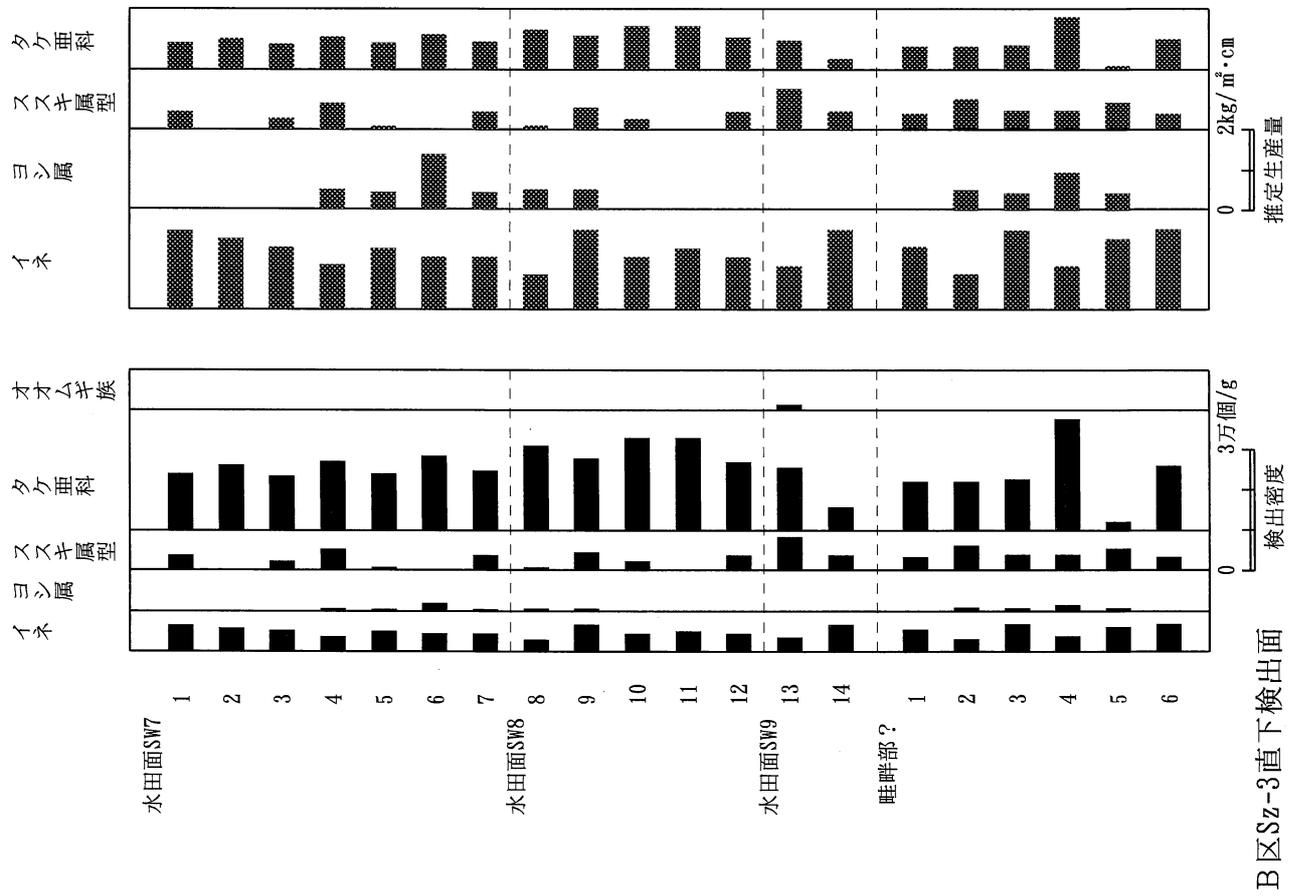
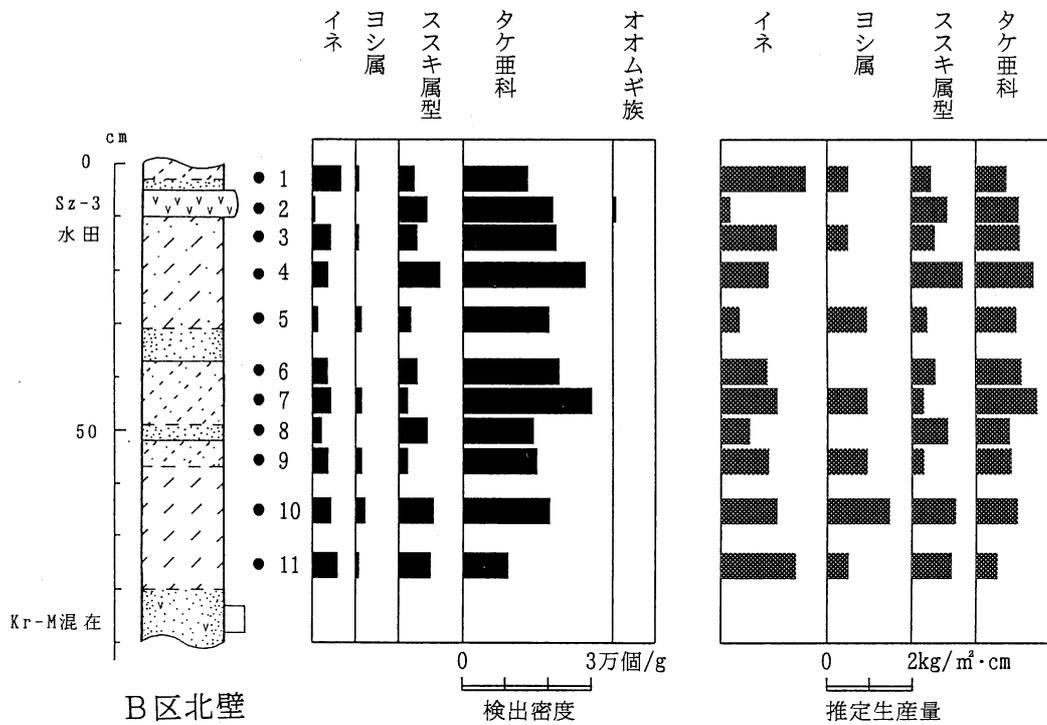


図1 嫁坂遺跡におけるプラント・オパール分析結果



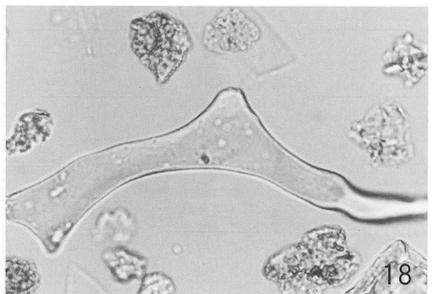
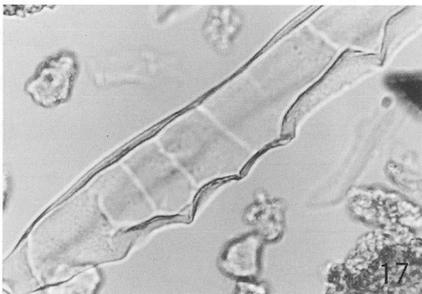
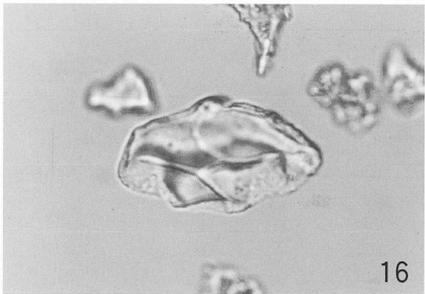
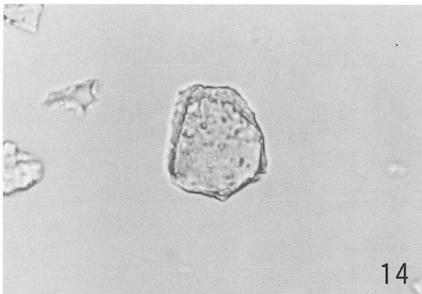
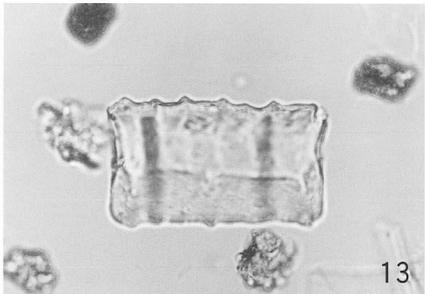
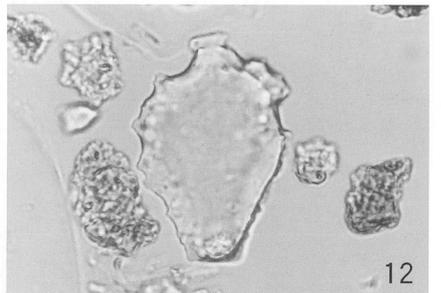
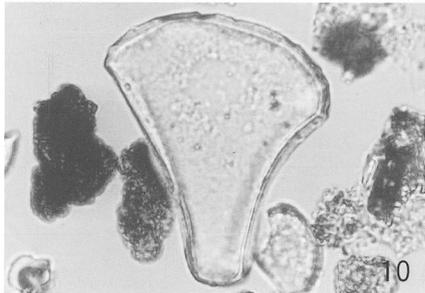
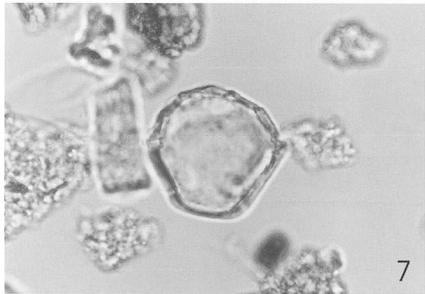
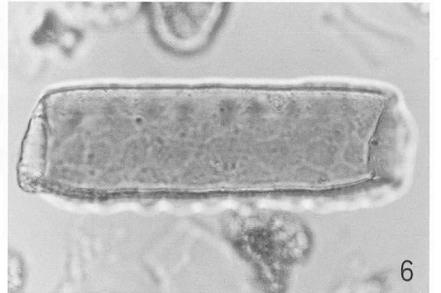
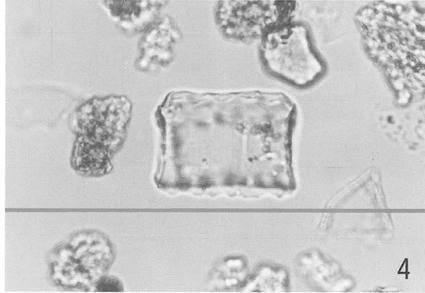
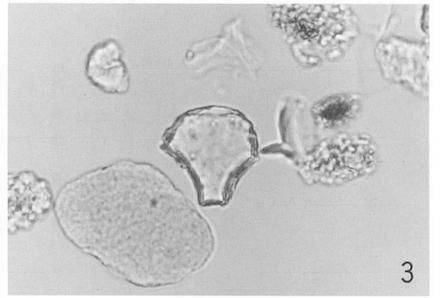
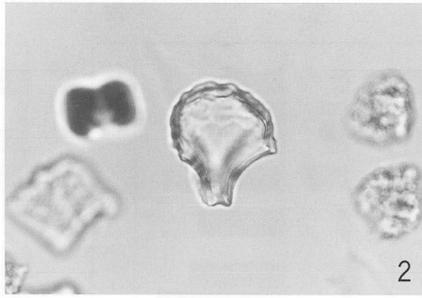
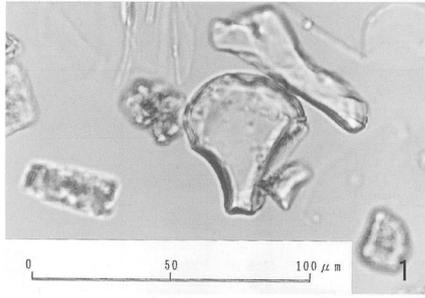




植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

(倍率はすべて400倍)

No.	分類群	地点	試料名
1	イネ	A区C地点	8
2	イネ	B区検出面	9
3	イネ(苗)	B区検出面	10
4	イネ(側面)	A区B地点	7
5	オオムギ族(穎の表皮細胞)	B区検出面	13
6	ヒエ属型	A区検出面	2
7	ジュズダマ属	A区D地点	9
8	ヨシ属	A区A地点	9
9	ウシクサ族B	A区A地点	3
10	ウシクサ族B	A区D地点	9
11	メダケ節型	A区B地点	5
12	メダケ節型	A区A地点	3
13	ネザサ節型	A区C地点	1
14	クマザサ属型	A区C地点	1
15	マダケ属型	B区検出面	11
16	ブナ科(シイ属)	A区D地点	8
17	クスノキ科	A区A地点	3
18	マンサク科(イスノキ属)	A区A地点	8





嫁坂遺跡遠景（南から）



嫁坂遺跡 遺跡全景（上から）



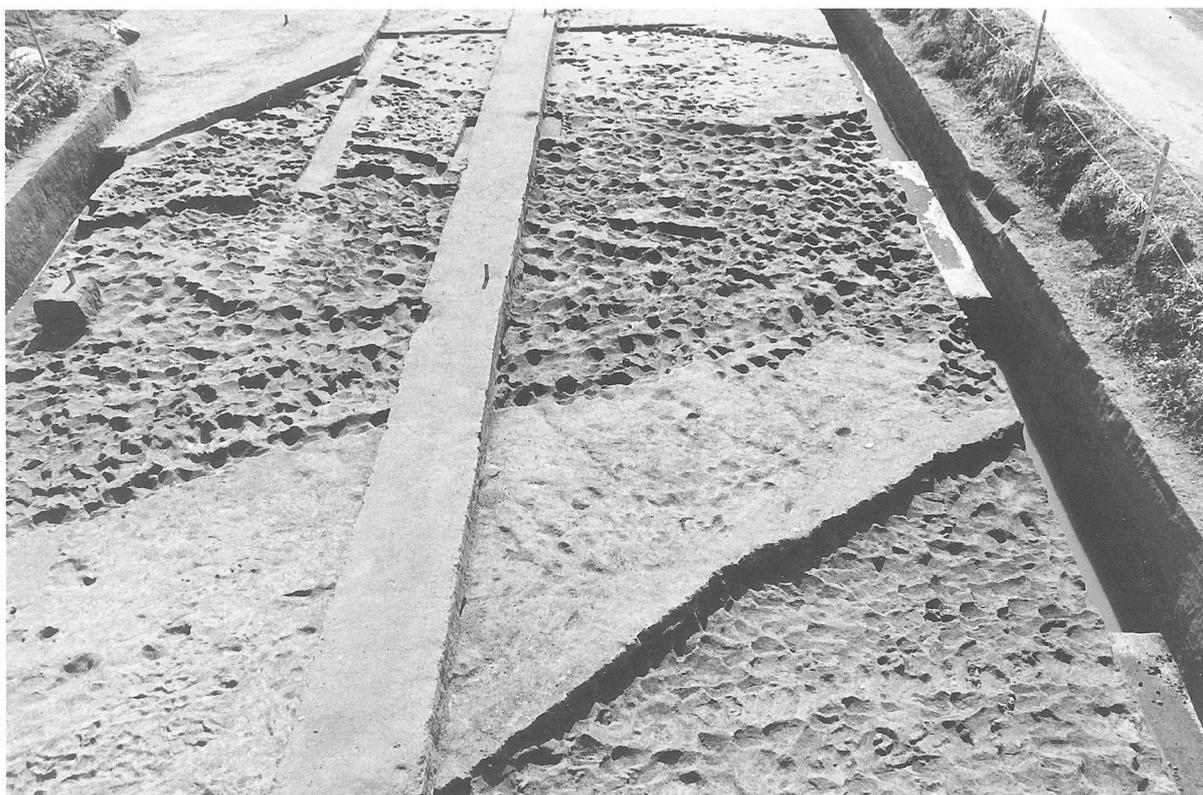
嫁坂遺跡 遺跡全景（南から）



嫁坂遺跡 SW7 (上から)



嫁坂遺跡 SW4・SW3・SW2 (上から)



嫁坂遺跡 SW4・SW3・SW2 農耕具等痕跡検出状況



嫁坂遺跡 SW4 農耕具等痕跡検出状況



嫁坂遺跡 SW 5 農耕具等痕跡検出状況



嫁坂遺跡 SW 8 農耕具等痕跡検出状況



嫁坂遺跡 SW 8 農耕具等痕跡検出状況



嫁坂遺跡 SG 1・SG 2・SG 3



嫁坂遺跡 SC1・SC2および円形配置ピット群



嫁坂遺跡 SC1・SC2

土層⑧



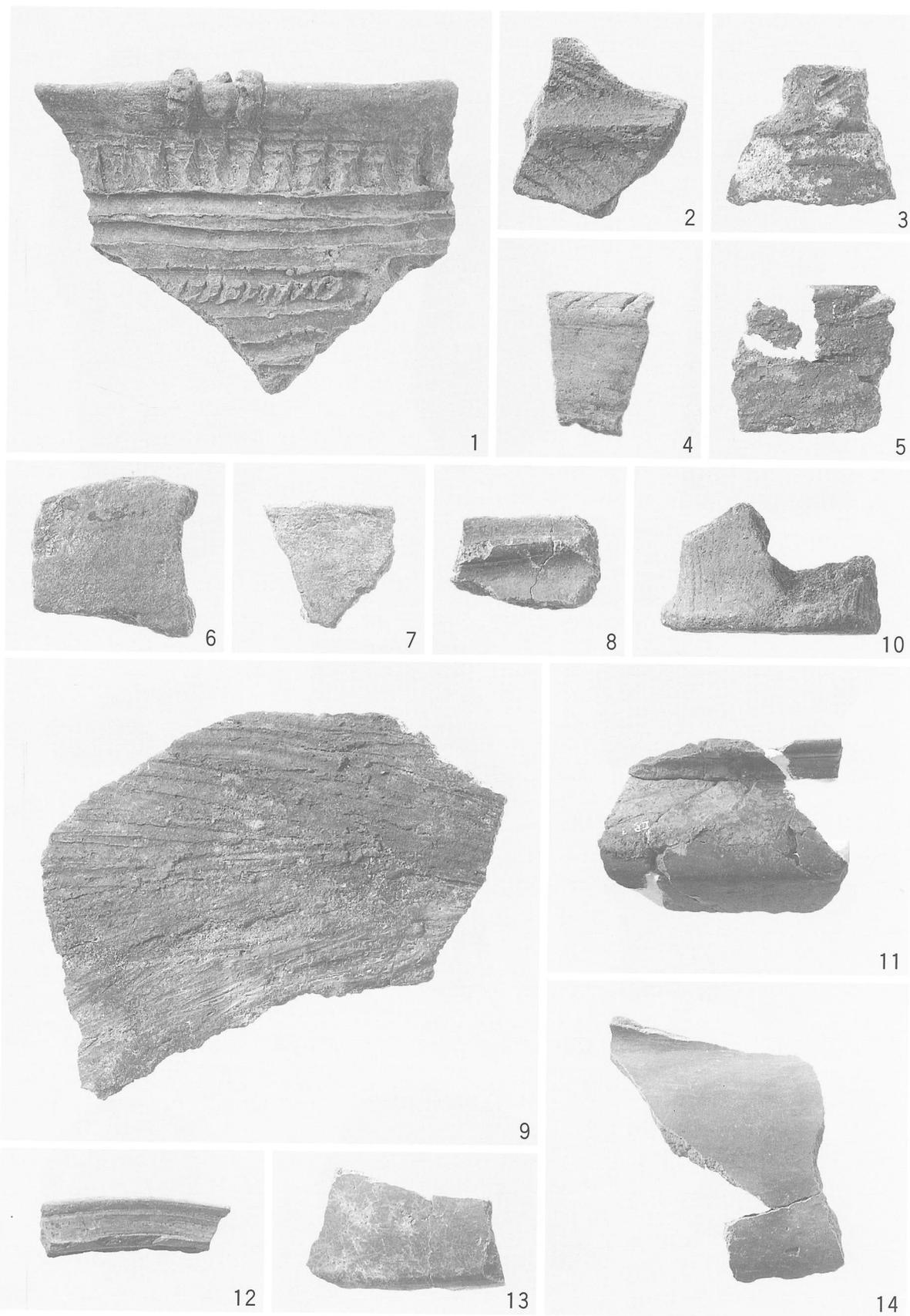
土層⑨



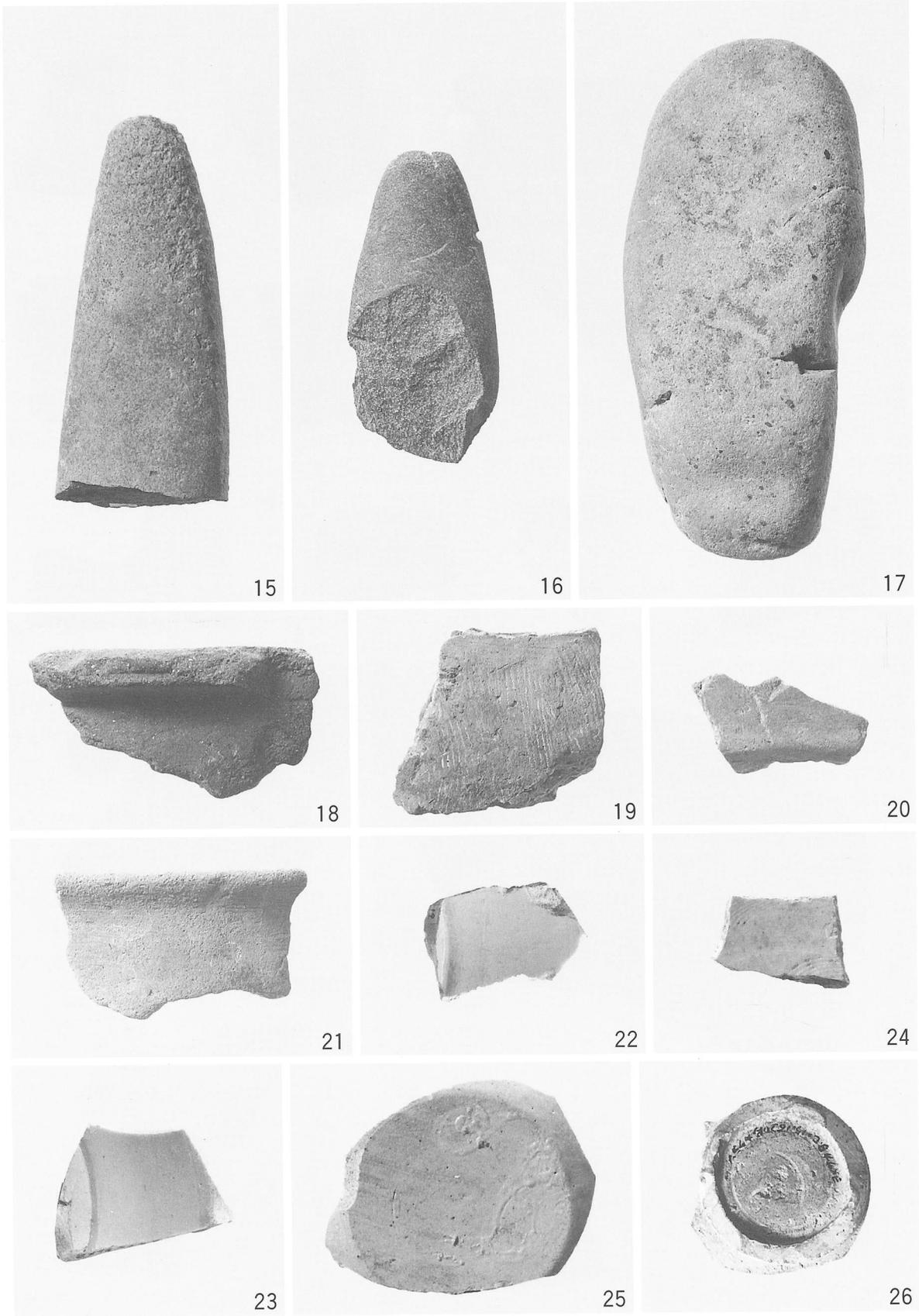
土層⑩



嫁坂遺跡 土層推積状況



嫁坂遺跡 出土遺物 (1)



嫁坂遺跡 出土遺物 (2)

# 報告書抄録

フリガナ	モチオダニ ハタダ ヨメサカ					
書名	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡					
副書名	農用地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書					
巻次	第2集					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第62集					
編集者名	甲斐貴充					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2002年3月20日					
フリガナ 所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
もちおだに 母智丘谷遺跡	宮崎県都城市 横市町 母智丘谷	31°44'27"	131°01'14"	1998.1.19 ～ 1998.3.25	850m <sup>2</sup>	農業用道路 敷設工事
はただ 畑田遺跡	宮崎県都城市 横市町 表	31°44'38"	131°01'13"	1998.5.20 ～ 1998.9.30	2,000m <sup>2</sup>	農業用道路 敷設工事
よめさか 嫁坂遺跡	宮崎県都城市 梅北町 嫁坂	31°39'24"	131°03'03"	1998.9.10 ～ 1998.12.24	1,500m <sup>2</sup>	農業用道路 敷設工事
収拾遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
母智丘谷遺跡	生産遺跡	中世	水田遺構	—	農耕具痕と考えられる 凹凸痕が明瞭に残る水 面跡	
畑田遺跡	生産遺跡 散布地	中世	水田遺構	陶器 磁器	農耕具痕と考えられる 凹凸痕が明瞭に残る水 面跡 豊富な中世の陶磁器	
嫁坂遺跡	生産遺跡 散布地	縄文時代 中世	水田遺構 9 道状遺構 3 溝状遺構 3 土坑 2 柱穴群	縄文土器 石器 陶器 磁器	農耕具痕、足跡の明瞭 に残る中世水面跡  円形配置のピット群	

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第62集

農用地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

母智丘谷遺跡  
畑田遺跡  
嫁坂遺跡

2002年3月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地  
TEL 0985-36-1171 FAX 0985-72-0660

印刷 田中印刷株式会社  
〒880-0022 宮崎市大橋3丁目110番地  
TEL 0985-28-4724 FAX 0985-20-9285

---